



令和2年7月号



熱中症警戒アラート

熱中症に警戒を呼びかける新たな情報の発信が始まりました。暑さ指数が33℃を超えると予想されるとき、気象庁から「熱中症警戒アラート」が発表されます。

暑さ指数とは

体への影響を考慮し、気温や湿度、放射熱などによって計算されます。

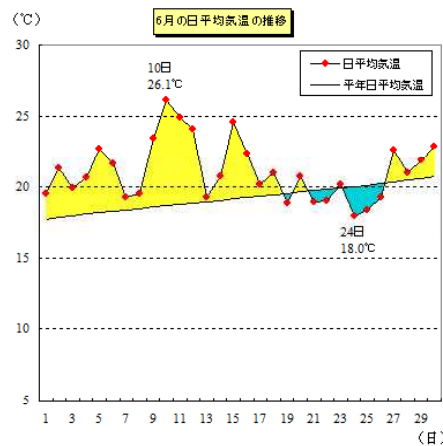
熱中症は、「熱中症警戒アラート」が発表されていなくても、周りの環境や体調により、起こってしまいます。

普段から熱中症には気をつけていただき「熱中症警戒アラート」が発表された際は、いつにも増して注意してください。

6月の気候

6月の月平均気温は21・1度と、6月としては高い方から4位と、かなり高い気温となりました。中旬には真夏日を2日観測し、下旬のはじめは低いときもありましたが、月を通して高い気温で推移しました。

雨や雷の日も多く、降水量は198ミリと平年の約120%となりました。日照時間も121・9時間と平年より多くなりました。



1カ月予報 (気象庁発表)

7月はじめは平年と同様に雨の日が多いですが、中旬は平年より雨の日が少なく、下旬は平年同様晴れの日が多くなってくる予想です。気温は「高い」見込みで、降水量、日照時間ともに「ほぼ平年並」の予想です。

天気相談所のあゆみ

行政放送番組2

毎日の天気予報以外にも、1か月に1回の5分番組「日立の気象と天気」と、数年に1度天気相談所を紹介する20分前後の番組が制作されています。天気相談所を紹介する番組は、2008年(平成20年)9月、2010年(平成22年)1月、2011年(平成23年)10月の3回制作されており、特に2013年は、天気相談所60年の歴史と業務を過去の映像資料も交えて制作しました。(新庁舎に移転後の2017年にはこちらをリニューアルしてします)。利用している古い映像は、昭和38年に天気相談所が10年たった時に作られたもので、「4人だけの気象台」という30分弱の映像です。当時の予報や観測の作業の様子が鮮明に残っていました。この映像は、ダビングしたビデオテープのみ存在が知られていましたが、原本であるフィルムが、新庁舎への引っ越し準備の際に、天気相談所の倉庫から発見され、現在は日立市の視聴覚センターで保管されています。

天気用語の基礎知識

高気圧

地上天気図などで、周囲よりも気圧が高く閉じた等圧線に囲まれたところ。周囲と比較して気圧が高いところであるため、「ある気圧以上が高気圧」という基準の気圧はありません。時には、低気圧よりも低い気圧の高気圧が天気図で表現される場合もあります。高気圧の中心付近は、一般的に、上空の空気がゆっくりとふき降りる場となっており、雲がなくなっていく傾向があります。

神峰の山から

熱中症警戒アラートに利用されている暑さ指数(WBGT)は人間の熱のバランスを考慮して、気温、湿度、放射熱を取り入れており、気温だけでなく、身体への影響に配慮した指数です。具体的には、気温があまり高くなくても、湿度が高いと暑さ指数は高くなる傾向があります。学校などでは運動の実施の判断などに以前から利用されてきています。天気相談所では、市役所屋上において実測もしています。暑さ指数は場所により違いがありますが、参考に御利用ください。

気温も暑さ指数もどちらも単位が「℃」なので、ややこしいです。